

正和中だより

令和2年4月8日発行
桑名市立正和中学校

「新年度スタートです！」

保護者の皆様、お子様のご入学、進級おめでとうございます。校長の片山哲哉でございます。近藤友徳前校長から引き継ぎ、職員が一体となって、学校教育目標「自主 共生」が実現される学校にしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

さて、4月8日現在の本校生徒・職員数は、生徒：1年生113名、2年生148名、3年生157名、計418名、職員：38名(育休中職員等を除く)となりました。全校生徒と職員、454名が力を合わせ、より一層、輝く学校となるよう頑張つて参りたいと思ひます。保護者の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願ひします。

◇職員の変動のお知らせ

この度の定期異動により、17名が退職・転出し、新しく15名の職員が着任しました。本校を去る教職員にこれまでご支援・ご鞭撻をいただき、誠にありがとうございました。また、この度、着任した職員につきましてもどうぞよろしくお願ひいたします。

退職・転出職員等	採用・転入職員等
近藤友徳：校長（長島中へ）	片山哲哉：校長（光陵中より）
廣山佳利：理科（光陵中へ）	中島敏弘：理科（長島中より）
永井 聡：理科（陽成中へ）	田中 峻 介：理科（鈴鹿市立神戸中より）
大森貴史：体育（陵成中へ）	杉山雄紀：社会（光陵中より）
青木大地：社会（明正中へ）	田中 翔：体育（陵成中より）
國保仁志：英語（明正中へ）	長田寛之：技術（新規）
塩満大輔：体育（長島中へ）	西川美憂：国語（陵成中より）
伊藤飛翔：技術（木曽岬中へ）	坂崎真理子：数学（鈴鹿高より）
川村直広：国語（伊賀市立崇広中へ）	滝川泰斗：数学（陵成中より）
水谷颯志：理科（退職）	島山裕加里：英語（新規）
櫻庭みどり：英語（長島中へ）	黒田悠月：社会（新規）
太田智絵：（明正幼）	伊藤利枝子：英語（長島中より）
村瀬美和：（大山田東）	近藤裕美：学習支援員
水越貞子：学習支援員（七和小）	岩寄かおり：学習支援員
小林 恵：学習支援員（陵成中へ）	藤田なつき：スクール・サポート・スタッフ
田中久仁子：学習支援員（退職）	
長谷川真大：三重大学大学院へ（正和中籍）	

令和2年度正和中学校職員の紹介

校長：片山哲哉 教頭：芝 佐織 養護：飯田美樹
事務：北村久美子 用務員：近藤 稔 スクールカウンセラー：大石紘子

	1年生		2年生		3年生	
	担任	副担任	担任	副担任	担任	副担任
1組	ながたひろゆき 長田寛之	出宮美陽子 たきがわた いと 滝川泰斗	まつい唯いし 松井唯士	よねだたまき 米田圭希	こんどうやすこ 近藤泰子	なかしまとしひろ 中島敏弘
2組	みとうけんこうか 明先風花	清水俊 介 しみずしゆんすけ 滝川泰斗	しばた ずる 柴田 輝	にしかわ み、ゆ 西川美憂	たなか 翔 田中 翔	やしま 充 八島 充
3組	おぎざきたかや 尾崎貴哉	市川柚衣 いちかわゆうい 滝川泰斗	ならがわかずあき 生川数馬	こにしな な 小西美菜	めくゑみす みこ 目黒寿見子	さかざき真理子 坂崎真理子

4組	—	—	たなかしゆんすけ 田中峻 介	よねだたまき 米田圭希	おおまきゆけいこ 大木恵子	すぎやまゆう き 杉山雄紀
5組	—	—	—	—	さとう 慎 佐藤 慎	なかしまとしひろ 中島敏弘
あゆみ	あゆみ1：城山友美 あゆみ2：小出京子					
学習支援	近藤裕美 長岡厚子 岩寄かおり					

●始業式

今年度は、全校生徒が集まって体育館で行うことができず、校長室よりライブ配信で始業式を行いました。

17名の採用・転入職員を紹介した後、校長の年度当初の挨拶として、3つのこと（①自分が成長したという1年にすること②人権を大切にすること③正しく判断し、行動すること）を話しました。3年生にとっては、義務教育最後の年になります。中学校生活を一層充実できるように行動して欲しいこと、2年生は、これから学校を支える中心になって活躍できる力をつけてくれることを期待しています。また、上級生として、1年生にとって頼りになる良き先輩となってください。

この1年間で、**すばらしい活躍を見せ、大きく成長してくれることを期待しています。**

●入学式

新入生のみなさんには、校長より3つの話（①積極的にあいさつをすること②人権を大切にすること③正しく判断し、行動すること）をお話しました。新入生代表の鍛冶ヶ澤二郎さんからは、これから始まる学校生活で新しい出会いが始まり部活動や学習に頑張つて取り組みたいことや仲間とともに力を合わせて充実した学校生活をしたいことなどを話してくれました。初めての中学校生活は、教科担当による授業や部活動など、戸惑うことばかりだと思います。中学校では、たくさん先生の、生徒の皆さんに関わつてサポートしてくれまふ。また、先輩方も助けてくれます。困ったことがあれば、是非を相談してください。

これから始まる中学校生活が充実したものになることを期待しています。

【保護者の皆様へ】

平成31年1月25日、文部科学省は「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を示し、令和2年3月25日、三重県教育委員会は、国の上限に関する指針等を踏まえて「学校における働き方改革の推進について」を各市町へ通知しました。これを受け、市教育委員会からは、教職員の時間外労働にかかる高い目標値が次の通り示され、本校においても学校経営方針に記載したところです。これまで、先生方は生徒に寄り添ひ生徒の成長を願つて、部活動や行事等に取り組んできたところですが、今後は、国、県、市の方針を踏まえて行事の精選を行ったり、国や県・市の部活動ガイドラインに沿った活動の中で、実施しなくてはなりません。

部活動については、既に始業式・入学式で「桑名市部活動ガイドライン」を踏まえ、本校の「部活動指導方針」をお示したところです。1日の活動時間や1週間の休養日の設定がされますが、限られた時間の中でこれまで以上に活動の質の向上に努めて参りますのでご理解をお願いします。また、年間予定については、土曜日授業を桑名市が示す基準3日程度に合わせ、学期に1回の3日間とするなど精選しました。働き方改革の推進の中にあつても、教育の質が維持され、一層の向上に努めて参りますので、何卒ご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。 ※裏面も参照ください

令和2年度 正和中学校 学校経営方針より	
総勤務時間を縮減し、ワーク・ライフ・バランスを図る	
《成果指標》	①一人当たりの月平均時間外労働時間 <u>30時間以下</u> ②年360時間を超える時間外労働者数 <u>0人</u> ③月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 <u>0人</u> ④一人あたりの年間休暇取得日数 <u>20日以上</u>
《活動指標》	①定時退校日を月1回設定し定時退校できた職員の割合 <u>85%以上</u> を目指す。 ②部活動休養日を週2日設定し、予定通り休養した部活動の割合 <u>98%以上</u> を目指す。 ③放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合 <u>80%以上</u> を目指す。

《保護者・地域の皆さまへ》
～学校の働き方改革へのご理解・ご協力をお願いします～

いま、社会全体で働き方改革が進められています。学校の働き方改革は特に待ったなしの状況です。

皆さまのお住まいの地域の学校は、毎日どのような御様子でしょうか。
朝は子供たちが登校する前の7時すぎから子供たちを迎えるための準備を始め、夜は職員室の明かりが20時前までついていて、土日もグラウンドや体育館で部活動をやっている、これは全国の小・中学校の平均的な姿です。
一人一人の子供たちと丁寧に向き合いたいという思いから、毎日時間に追われて働いているため、先生は他の職業と比べてストレスが高いというデータもあります。

「そのくらいなら、自分の方が働いている！」「忙しいのは先生だけみたいなこと言わないで！」。皆さまから、そんな声が聞こえてくるかもしれません。
ですが、働き方改革が必要なのは先生を楽にするためではありません。学校が、子供たちの未来に直結する場所だからです。

御存じのとおり、これから大きく社会が変わろうとしています。今でもパソコンやスマホ、外国人との仕事や交流など、私たちが子供だったときには、取り巻く環境が違ってきています。学校は、子供たち一人一人がそんな未来をたくましく生き抜く力を身に付ける場所です。自分で考え、仲間と協力して取り組む力、知らない人に自分の意見を正確に伝える力、そして英語やプログラミングなど、しっかり子供たちに身に付けさせなくてはなりません。

学校の働き方改革は、これまでの先生の働き方を見直し、毎日元気に子供たちの前に立って未来につながる力を育む教育を行うために必要なものなのです。先生には、授業やその準備をはじめとした先生にしかできない教育活動に全力投球していただきますよう。

お住まいの地域の学校でも、これから『朝の登校時間を改める』『夜は学校も留守番電話を設置する』『部活動の時間を見直す』『子供の補導時は基本的に保護者に対応いただく』といった取組が始まります。
こうした中、地域全体で子供たちによりよい教育環境を実現するため、学校・家庭・地域が教育目標を共有し、それぞれ何ができるか考え、連携・分担することが重要です。例えば、保護者や地域の方々などがサポート・スタッフや部活動指導員、ボランティアとして学校に参加する、土日の地域行事や登下校時の見守り、夜間の見回り等は地域が主体的に担うといった取組をこれまで以上に進めていただくことも考えられます。特に、PTAに期待される役割は大きく、学校や地域との役割分担を話し合い、共通理解を得ながら、活動を充実することが大切です。

未来を担うのは子供たちです。子供たちのために我々みんなで取り組んでまいりましょう。子供たちの教育をますます良くする、そのための学校の働き方改革にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

平成31年（2019年）3月18日
文部科学大臣 柴山昌彦